

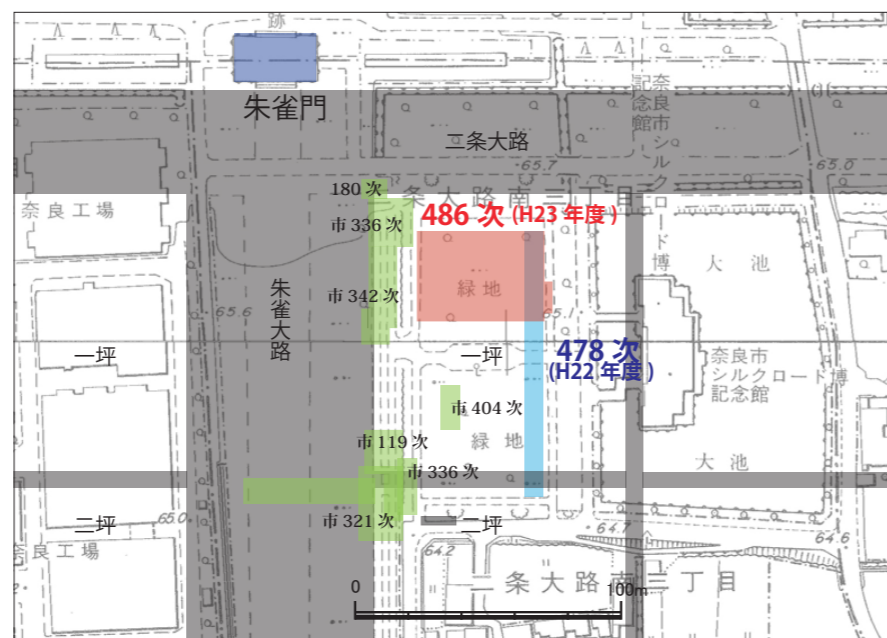
## 平城第 486 次

## 平城京左京三条一坊一坪の調査

独立行政法人 国立文化財機構

奈良文化財研究所 都城発掘調査部

平城宮の正門である朱雀門のすぐ東南に位置し、朱雀大路の東側に面するこの場所は、平城京のなかでも一等地です。国土交通省の平城宮跡展示館建設予定地で、昨年度から発掘調査をおこなっています。周辺では奈良市教育委員会が朱雀大路沿いで発掘調査をおこない、坪を区画する築地塀が一坪の東辺と南辺では造営されていなかったことを確認しました。このことから、この一等地がどのような場所であったのか、謎にまつまれています。



調査区位置図



昨年度の調査で見つかった井戸

第1回目となる昨年度の調査(平城第478次)では、敷地の東よりに南北に長いトレンチを入れて調査をおこないました。坪を南北に二分する東西方向の道路と、その北に大きな井戸がみつかりました。井戸の規模は平城京でも最大クラス、井戸枠の上段は方形、下段は六角形という特殊な構造のものでした。中段の部分には小礫を敷いて美観を整えています。上段の井戸枠は長さ約2.4m、六角形は一辺約1.1mの大きさで、深さは井戸枠が残っていた面から約2.3mです。



井戸から出土した土器

井戸のなかからは、木簡や土器、瓦が出土しました。なかでも注目されるのは文書の軸です。この木口部分に、天平2年(730)の年紀が記してありました。井戸の埋没は出土した土器や瓦の年代から、奈良時代の中頃とみられます。土器は須恵器の壺や食器類、土師器の杯皿などが含まれていました。とくにめだって多いのは煮炊きに使われた土師器の甕です。その他、須恵器の壺類が多く含まれていました。陶硯や奈良三彩も小片ながら出土し、「右相撲□」、「□撲司」などと記した墨書土器も出土しました。これらの遺物から、奈良時代の前半期に井戸の周りには、公的な機関が存在していたと思われる。今回、井戸の西では工房等がみつかり、これに該当する建物群がないことが確認されましたので、東側に展開する可能性が高くなりました。

工房の近くでは、大量の炭を使っていたため、炭を含む真っ黒な土が一面に広がっていました。工房付近の溝や土坑につまった土には、木炭とともに工房に関連する遺物が入っていました。なかでも多いのが、炉に風を送る「ふいご」の先に取り付ける羽口です。現時点で70～80点を数え、まだまだ増えると予想されます。また、鉄を鍛造加工するときに出る鉄滓も多量に含まれていました。この鉄滓のタイプと、炉の大きさなどから、小型の鉄製品を鍛造で加工していたことが推定されます。工具ならば斧など、建築部材ならば釘など、武器ならば鉄鎌などを作っていたと推定されます。鉄製品の出土はきわめて少ないですが、鉄釘が1点確認できました。その他、金床石と呼ばれる赤熱した鉄を叩く台に使われた石が10数点、砥石が1点確認できています。



工房から出土した鉄滓・羽口・金床石

## I 期

### 工房 1

鉄製品の鍛錬鍛冶工房。掘立柱建物を伴う。9間×2間の東西棟。建物の内部に炉(赤)、金床(黄)、土坑(青)が、6～7単位程で2列に並ぶ。

### 東西溝・斜行溝

斜めに平行して走る2条の溝(斜行溝1・2)に3条の東西溝がとりつく。斜行溝1と東西溝2の合流部分では堰状の木材もみつかった。工房の床面を乾燥させるための排水溝と考えられる。工房廃絶時に、木炭や鉄滓など工場の廃棄物を投げ込み、最後はきれいな粘土で埋め立てる。

### 廃棄土坑

工房1と2に付属する不要物の投棄土坑。工房建物に隣接し、溝に取り付くように掘られ、多量の木炭や鉄滓、羽口などがみつかった。

### 建物 1

調査区の南寄りで検出した掘立柱建物。4間×2間の東西棟。工房に付属する施設であろう。

### 工房 2

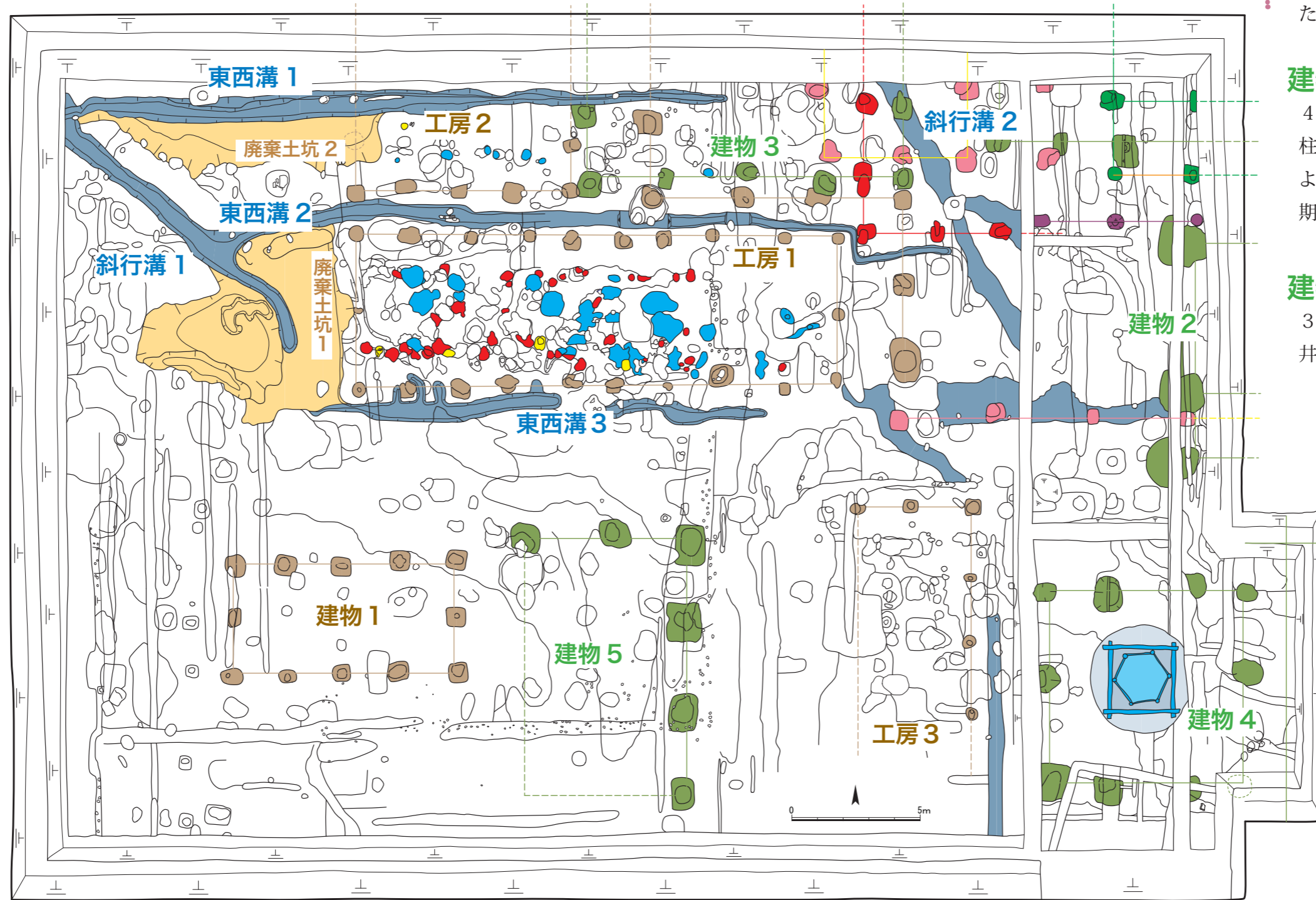
鉄製品の鍛錬鍛冶工房。掘立柱建物は4間×2間(推定)の東西棟。工房内の炉跡は多くが削平されている。

### 工房 3

鉄製品の鍛錬鍛冶工房。掘立柱建物は4間(推定)×2間の南北棟。工房内の炉跡は多くが削平され、一部は整地土が覆うため、未検出。

### 堀 1

工房域を区画すると思われる掘立柱堀。東西溝がクランクする部分で曲がり、さらに北に曲がる。



## II 期

### 建物 2

昨年度の調査で検出していた掘立柱の東西棟。今回の調査で、西側に展開しないことが確認できたため、東にのびるとみられる。工房の溝を埋め立てた後に掘られている。

### 建物 3

4間×2間と推定される東西棟の掘立柱建物。工房の覆屋である掘立柱建物よりあたらしく、井戸や建物2と同時期の可能性が高い。

### 建物 4

3間×2間の掘立柱建物。井戸を覆う井戸屋形とみられる。

### 井戸

上層が正方形、下段が六角形を呈する特殊な構造。井戸の規模は平城京でも最大級。工房が操業停止した後に掘られ、奈良時代の中頃に埋め立てられたとみられる。

### 建物 5

4間以上×2間以上と推定される掘立柱建物。西側の柱列を確認できていないため、堀などの区画施設になる可能性もある。工房廃絶後の整地土の上でみつかった。

現地説明会のご案内を電子メールでお送りします。ご希望の方は、お名前・ご住所・メールアドレスを下記のアドレスまでお送りください。

Eメールアドレス [heijo@nabunken.go.jp](mailto:heijo@nabunken.go.jp)